

2023世界柔道選手権 (カタール・ドーハ)

令和5年5月7日(日)から14日(日)に、カタール国ドーハ市において「2023 柔道世界選手権」が開催され、第2教育課柔道班から濱田尚里1等陸尉、新添左季3等陸尉が参加した。結果は、新添3尉が初優勝、濱田1尉が第5位の成果を納めた。

新添3尉は、5月11日(木)大会5日目の女子70kg級に2回戦から登場し、ゴシェン選手(イスラエル)にゴールデンスコア【延長戦】(以下GS)において技有で勝利すると、3回戦ではベレス選手(プエルトリコ)に合技一本で、準々決勝ではゲイエ選手(フランス)にGS突入後も積極的に攻め続け相手の反則による一本で勝利した。準決勝は、4月のグランドスラム・アンタルヤ大会決勝でも対戦した世界選手権2連覇中のマティッチ選手(クロアチア)との対戦となった。試合時間終了間際、小外刈で技有を奪い世界選手権初優勝まであと一つと迫る。決勝戦は、スコッチマロ選手(ドイツ)と対戦、新添3尉の得意とする内股で技有りを奪い、そのまま抑え込んで合技一本で世界女王へと昇りつめた。新添3尉は、パリオリンピックへの切符を大きく引き寄せた。



男女混合団体戦6連覇に貢献



代表決定戦で勝利した新添3尉(中央下)

濱田1尉は、5月12日(金)大会6日目の女子78kg級に登場、2回戦、3回戦と勝ち進んだが準々決勝でチュメオ選手(フランス)に敗れると、敗者復活戦からの3位決定戦に挑んだが、ボン選手(ドイツ)に敗れ第5位となった。

大会最終日の5月14日(日)には男女混合団体戦が行われた。団体戦は男女各3人の6人制で行われ、大会5連覇中の日本チームは2回戦で韓国、準々決勝でジョージア、準決勝でオランダと順調に勝利し、フランスとの決勝戦を迎えた。新添3尉は、女子70kg級で出場しピノ選手に敗れた。団体戦は3-3となり、迎えた代表戦では抽選で女子70kg級が選ばれ、新添3尉にリベンジのチャンスが運ってきた。道着の袖の短いピノ選手に対し、苦闘6分53秒、ついに反則勝ちし日本の大会6連覇達成に貢献した。

試合後、胴上げによる祝福を受け「人生で初めてされたんですけど、思っていたよりも悔いですね。うれしかったです。」とはにかみながらも、喜びを語った。

2023年近代五種 ワールドカップ第4戦 (ブルガリア)

令和5年5月9日(火)から14日(日)に、ブルガリア共和国ソフィア市において「2023年近代五種 ワールドカップ第4戦」が開催され、第2教育課近代五種班から佐藤大宗3等海曹他4名が参加した。結果は、佐藤3曹が準優勝の成果を納めた。

予選は男子70名を2コグループに分け実施され、佐藤3曹はグループ2位で準決勝進出を果たした。準決勝でも、グループ1位で決勝進出を決め、好調さをアピールした。

迎えた決勝では、フェンシングは24勝11敗(245点)4位、水泳2分10秒82(289点)11位、馬術300点(6位)、レーザーラン10分42秒(658点)9位、総合得点1492点でトップと3点差の準優勝となった。近代五種におけるワールドカップ個人種目での銀メダル獲得は日本人初の快挙であり、パリオリンピックに向けて大きな成果となった。大会を終え、佐藤3曹は「自分一人の力ではなく、サポートしてくれた皆で獲得したメダルです。引き続き優勝目指して精進していきます。」と述べた。

【近代五種とは…】

フェンシング(相手の全身に対して突きを繰り出す「エペ」)、水泳(200m自由形)、馬術(障害飛越)、レーザーラン(ラン600mを5回+射撃5発を4回)の5種目を1日ですべて実施することから「キング・オブ・スポーツ」と呼ばれている。戦場で斥候が、馬で敵陣に乗り込み(馬術)、銃と剣で敵を倒し(フェンシング・射撃)、川を泳いで渡り(水泳)、走り抜けた(ラン)という故事を元に競技化したとされており、馬術において軍服を着用することもある。

